

記	事
組	物

国際理論物理学会議組織委員会
物性専門部会第2回会合記事

日 時 : 昭和28年2月22日 午後2時～5時

場 所 : 京大理工学研究所会議室

出席者 : 荒木, 有山, 兼原, 沢見, 原島, 玄根, 石原, 柿内, 小谷, 久保, 宮原, 崎, 小野, 高木, 高橋, 谷, 戸田, 山本各委員

- 議 題 :
1. 小谷委員長経過報告
 2. 国際会議に関する参加者への連絡について
 3. 日本人参加者の送迎
 4. 雑 件

記事
組 安 物 3

1. 川谷委員長経過報告

予算・寄付募金の見通・外国人参加者の出願見通・2nd circularの依頼方針・京都会場準備状況等について報告があり、2nd circularに入れるプログラム中に外国人参加者の講演を組み入れることが第1議題として提案された。

2. 国際会議に関する参加者への連絡について

原案が2つ提示されたが、その中の第2案に修正を加えて、結局行録に記した案が採択された。

これに関連して次のことが採り上げられた。

- (a) Heisenberg (素粒子部門) は23日の超導等の部会には是非出てもらいたい。
- (b) 日本人の論文はその抄録を予稿に刷り込んで配布し、日本における研究の紹介ならびに本会議の席上での討議の資料とする。この原稿の編集は各専門雑誌に各分科で目を通して集める外、5月の分科会でも発表論文を拾うことに努める。送定された論文については着者に英文抄録の依頼を依頼する。以上の手続を了承。
- (c) Prigogine の講演は Irreversible process の方はプログラムに組み入れるが、Helium の方は informal のときにでも話してもらいたい。
- (d) 言葉の問題を少しでも楽にするために、幻灯のスライドに出せるだけ詳しい記述を入れて、言葉による説明を少なくしてもらいたい。
- (e) 討論についても、予の質問の内容を予稿にして配布することを考える。
- (f) フランス語は出来るだけ遠慮してもらいたい。
又公用講演の希望として、富士フィルムで Mott、福崎で Mott 又は Sautz 及び Flory を依頼したいことが伝えられた。

3. 日本人の会議参加の送定

制限の枠は会場の収容能力によるが、参加者送定の基準としては会議の学術的水準の維持を目標とする。

具体的には塑性部会の

- (1) 現に研究に従事している若くは若い研究者も入れる。
- (2) 現任はその方面の研究をしていない人は権威者だけにする、が1つの例として挙げられた。

以上の他、組織委員会から運営上必要な人を選んで加える。又部会の専門に関連した分野の実験方面の人達も入れることにする。

総数としては各会場それぞれ100名位とし、全部会に続けて出ない人を勘定に入れて延300名位を考える。各専門では塑性50名、統計力学100名以上等の人数が挙げられたが、改めて各分科で見込案を作ることを決定。

又旅行の道程における日本人同伴者については外国人の倍程度の日本人という考に出たが、大抵同数位という意見が強かった。外国人の相手をするには、既に手紙をやり取りしている人達もあり、専門毎に分れて相手をするようにすれば、話題に窮することはない筈という意見であった。

4. 雑件

(a) 物理学関係施設の説明書

参加者の地方旅行の参考にするための資料として交通公社のガイドブックと一緒に送るものであるが、その原稿は各関係大学・機関で作製し、3月2日までに中央に集めることに決定。

(b) 委員追加

専門部会委員を若干増加することに決定。